

## カイヨの典型・河島さん宅の屋敷林清掃を

3月27日(土)河島加壽子さん宅(砺波市荒高屋)の清掃とカイヨ見学会を18名の参加で行ないました。前日の小雪とうって変わった晴天に一同感謝し、清々と体を動かしました。

事前に河島さんは、冬期中のスンパ等の始末をされていて、ゆっくり屋敷林の勉強会を行ないました。

柏樹代表幹事が、カイヨの特徴を和田健さんはカイヨや建物を見ての感想を話し、意見交換しました。河島さんから、屋敷林の世話をする中で親しみを感じていること、先代の大事な贈り物として世話管理していること、これが日常のつとめだと話されていました。

また、ワクノウチ造りの広間を式台から入って見せてもらいました。

### 〈柏樹代表幹事の話〉

○敷地は約2,100㎡でこの地区では大きい。平均1,300㎡ほど。カイヨの相観、配置は自然態でこの地域の典型だ。

○カイヨの重層観は、樹齢、樹種の組合せ、配置グループの盛り上がり等から感ずる。大変厚みのある内容と型をつくっている。鳥や小動物のよいすみかである。

○樹種が多い。カシ、モチ、ヒノキ、コウヤマキ、タイサンボク、サワラ、ヒバ、イトヒバ、エノキ、キンモクセイ、サザンカ、等の組合せが巧だ。

○屋敷林内、特に表場(S面)に勾配があることがよい。樹木の成長のためによい。また、根が露出し、土をにぎりしめているように見えるが、この形は見事だ。上に土砂をかぶせない方が樹のためになる。

○綺麗な苔が一面にあることは、ねばり強い掃除の結果でないか。ホウキ効果の手本だ。



柏樹代表の挨拶

### 〈和田健さんのコメント〉

○素晴らしいカイヨだ。古い庭づくりの結果が、今に生きつづけている。モチの根が土をにぎりしめている形はすごい。造園業者が見ると驚くに違いない。

○コウヤマキを見て高野山を思い出した。お墓にどうしてコウヤマキをたむけているのかと質問したら、「この土地にあるから使っている」と答えられた。ここだったらスギがあればそれをたむければよい。シキミを亡者の枕もとにたむけるのも特別な意味はないはずだ。

○スギの生垣もモチやシロダモの成立も自然態を大事にされている印した。そっと支える程度に手をかけてみえることが元気なカイヨをつくる裏付けとして大事なことだ。

○建物にも美学が大切だ。先代のこだわりで感心させられた。玄関の6.5間の通し丸ケタ、前側のムシコザン、戸のサンと腰板、玄関の戸の板の模様が美しい。蔵の戸前のづくり、本体がセイロ造りになっている。

○田の石を拾い、それを屋敷内の必要なところで生かされている。

○家は80年前に建てられたそうだが、基礎も高く、ギッシリしている。うしろに味噌小屋のあることに感心した。

○カイヨと建物も住む人が大事に使い付き合いされている家の代表格だ。



手で落ち葉をひらう

## 〈参加者の声〉

- 宝田さん ○この家とカイニヨから昔の人の根性が見える。  
○木は大事だ。木材にもクズはない。それを地でやられていることがこの家の随所に見られた。
- 奥さん ○コウヤマキとラカンマキがある。その実は仏が手をあわせ合掌している形、姿に見える。おもしろい木だ。
- 中田さん ○前庭のキンモクセイの5mくらいの枝に鳥の巣がある。人が下を通るところでも安全、安心な場なのか。  
○あったかさを感じるカイニヨだ。
- 永原さん ○近くにいてもこうして屋敷林の中に入れてみせてもらえる事はない。入ってみて心が安らぎ気持ちがいい。

## 総会開催のご案内

- 日時 6月6日(日) 午後2時から3時30分
- 場所 中嶋家(チューリップ公園内)
- 議題 ①平成21年度活動報告と決算報告  
②平成22年度活動計画  
安曇野の屋敷林見学会(7月25日開催)  
全国屋敷林フォーラム(10月22・23日)・カイニヨの掃除(23年3月)
- 講演会  
・演題——鷹栖村の御藪  
・講師——新藤正夫・安か川恵子(砺波市立散村地域研究所)

ホームページのアドレスが変更 <http://www.kainyo.info/>

## 屋敷林さらに美しく



### 砺波カイニヨ倶楽部が清掃活動

砺波カイニヨ倶楽部は27日、砺波市荒高屋の河島加壽子さん(62)の方のカイニヨ(屋敷林)の清掃活動を行った。会員20人が参加したが、カイニヨは手入れが行き届いており、スズバ(スキの落ち葉)をきれいにした後は柏樹直樹代表幹事が植生や庭の造りなどを解説し、勉強会に早変わりした。

### 植生や庭の造りなども解説

同倶楽部は散居景観を維持するため、手不足になっっている散居村宅で定期的に清掃活動を行っている。荒高屋地区は同市夢の平スキー場近くの展望台から眺めると、中野、種田地区などとともに散居光景の中心を構成している地区で、特に河島さん宅は敷地面積約2千平方メートル、砺波市保存屋敷林に指定されたカイニヨに囲まれた散村家屋となっている。

この日は、会員がくま手、ほうきなどを携えて集まったが、根上りのモチノキなど樹齢200年近い樹木の下に広がるコケには枯れ葉もなく、会員らは感心しきり。掃除もそこそこ庭内を見学し、柏樹代表幹事が大小の樹種と樹齢の違いなどの配置で立体的なカイニヨを形成していることなどを説明した。

スズバなどを拾い集めるカイニヨ倶楽部会員 砺波市荒高屋

富山新聞 平成22年3月28日付

## 風に強い「カイニヨ」試案

(柏樹直樹)

4月27日の低気圧通過で南砺市・砺波市南部の苗代や野菜ハウスに被害が出た。また、高瀬神社のスギの倒木、風に吹きとばされ怪我人もあった。瞬間風速41mの大風だったが、全体としてカイニヨの倒木被害は無かった。短時間だったこと。カイニヨは、南西風に強い事を証明した。

しかし、なんと言ってもカイニヨは風が心配。平成16年の台風23号の経験を生かし、カイニヨ倶楽部が2軒の家で植樹した手法を整理して、どの方向からの風にも強い「カイニヨづくり」を提案する。 実態に合わせ大いに討論し理想的な指針を作り上げたい。

- 1) カイニヨづくりの視点
  - ① 元気なカイニヨで手間をかけない。風に強く効用を発揮する形に。
  - ② 日々のカイニヨとの付き合い方は、のんびりと。落葉と同居する人間に。
- 2) カイニヨづくり案
  - ① 土地に合う樹木を生かし、大・中・低木の組み合わせを考える。  
大木・カシ類、クス、タブ、ケヤキ、シイ、ハンノキ、エノキ、カキ、スギ、ヒバ、中木・ヤブツバキ、モチ、マサキ、ネズミモチ、サンゴジュ、コナラ、ハゼ、クリ、エゴノキ、ソヨゴ、ウメ  
低木・ヒサカキ、ウメモドキ、ヤマブキ、アオキ、ムラサキシキブ、ウツギ、マユミ
  - ② 敷地には、起伏を造り排水を良くする。
  - ③ いくつかの樹木群をつくり、列植はさける。  
密植し(10㎡(6畳)に大・3本、中・3本、低・4本)間伐整理する。  
植栽木は30-50cmの苗を使う。
  - ④ スギは、樹高16m以上の樹芯は切り落とし、枝の間引きをする。
  - ⑤ 庭木のエリアも作り、生け垣も取り入れる。
  - ⑥ 主根、支持根は、上部枝の張る範囲までのびる。  
建物(母屋等)と樹木のエリアの空間をとること——基礎から3m離して植える。

